の「蒙る」は、相手方の文の引用にさいして、その相手の行為などを琉球側が敬意をもって描写するときにしばしば用いる語である。

（4）参迦　まじわり出会う。

（5）洪熙二年　宣徳元年とあるべきところである。

1-40-04

琉球国中山王より暹羅国あて、実達魯等を遣わして速やかな交易を請う咨（一四二七、九、一七）

琉球国中山王、進貢の事の為にす。

為照するに、本国は貢物稀少なり。今、正使実達魯等を遣わし、勝字号海船一隻に坐駕し、磁器等の物を装載し、貴国の出産の地面に前到して胡椒・蘇木等の貨を収買し、回国して応用せしむる除外、専ら礼物を備えて詣前し、奉献して少しく遠意を伸ぶ。仍お希わくは海納せよ。煩わくは、四海一家を念い、貿易を従容し、早やかに発するを為さんことを。風迅に赶趁して回国すれば便益ならん。今、礼物の数目を将て後に開坐す。須らく咨に至るべき者なり。

今、奉献の礼物を開し、後に開坐す

織金段五匹　素段二十匹

硫黄三千斤　今二千五百斤正と報ず

腰刀五柄　摺紙扇三十把

大青盤二十個　小青盤四百個

小青碗二千個

右、暹羅国に咨す

宣徳二年（一四二七）九月十七日

1-40-05

琉球国中山王より暹羅国あて、浮那姑是等を遣わして速やかな交易を請う咨（一四二八、九、二）

琉球国中山王、朝貢の事の為にす。

照得するに、本国は貢物稀少なり。此の為に今、正使浮那姑是等を遣わし、盤字号海船一隻に坐駕し、磁器等の物を装載し、貴国の出産の地面に前往して胡椒・蘇木等の物を収買せしむ。回国して謹んで大明の御前に進貢するに備う。仍お礼物を備えて詣前し、奉献して少しく遠意を伸ぶ。幸希わくは収納せよ。更に煩わくは、今差去する人船は、買売せしむるを容さんことを。早きに及びて打発し、風迅に乗趁して回国すれば便益ならん。今、奉献の礼物の数目を将て開坐し移咨す。施行せよ。須らく咨に至るべき者なり。